

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語日本文化学科		8	0	12	20	13	
	国際英語学科				8	18	13	
	総合歴史学科				10	18	13	
	音楽芸術学科				14	22	13	
	英語英米文化学科				8	16	13	
	外国語コミュニケーション学科				8	16	13	
経営学部	経営学科			0	10	18	13	
人間科学部	現代子ども教育学科			0	14	22	13	
	多元心理学科				10	18	13	
	コミュニティ福祉学科				12	20	13	
デザイン工学部	建築デザイン学科			0	12	20	13	
	情報デザイン学科			0	14	22	13	
生活環境学部	食環境栄養学科			0	18	26	13	
	生活マネジメント学科			0	10	18	13	
	環境デザイン学科			0	12	20	13	
看護学部	看護学科			0	8	16	13	

薬学部	薬学科			0	30	38	19	
国際情報学部	国際情報学科			0	6	14	13	
(備考) 教育課程の変更途上である学科については、当年度に配置されている授業科目で記載している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.kinjo-gakuin.jp/about/organization/index.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	基督教団牧師	2025. 5. 26 ～ 2029. 6 (4年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
非常勤	同窓会会長	2025. 5. 26 ～ 2029. 6 (4年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
非常勤	代表取締役社長	2025. 5. 26 ～ 2029. 6 (4年)	学識経験者としての経験をもって、学校法人運営に対する指導・助言を掌る。
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
授業計画(シラバス)は全学で統一の様式を使用しており、作成する際は、全学共通のマニュアルに沿うこととしている。 授業担当者が作成した授業計画案は、各学科の委員会等でディプロマ・ポリシーとの整合性、授業の方法と内容、授業回数、評価方法等の確認を行い、必要な場合は修正を行う。 前年度の3月からWEB上で公表している。	
授業計画書の公表方法	https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
各授業において、学修成果の評価に関係する課題、レポート、小テストなどの詳細はシラバスに記載し、あらかじめ学生に示している。また、全学統一ルールとして、授業の欠席回数が授業回数の3分の1以上となった場合は単位を与えない。 単位授与はあらかじめ公表している以下の全学統一成績評価基準により行う。 成績評価基準：A A=90点～100点、A=80点～90点未満、B=70点～80点未満、C=60点～70点未満、F=60点未満	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価の客観性と厳格性を確保するため全学でGPAを導入し、履修要覧に詳細を記載し、ホームページで公表している。 本学のGPAは成績評価とそれぞれのGP(AA=4、A=3、B=2、C=1)を定め、以下の計算式により1単位あたりの成績平均点数を示すものとしている。GPAは成績単位修得通知表に記載し、学生の学修意欲向上に役立てている。 成績の分布状況の把握は、GPA値を学科・学年別にヒストグラムにすることにより確認している。 $GPA = \frac{4 \times AA \text{の単位数} + 3 \times A \text{の単位数} + 2 \times B \text{の単位数} + 1 \times C \text{の単位数}}{AA + A + B + C + \text{不合格となった履修登録単位数合計}}$	
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://busho.kinjo-u.ac.jp/rishu/testpage/youran2/youran2/rishu.htm (2026年度大学編p.15)
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定方針は教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するかを定める基本的な方針であり、学修成果の目標とする。 具体的には大学として、また各学科別に身に付ける4能力を示し、それらを身に付け総合的に活躍できる学生に学位を授与するとしている。 卒業認定に関しては共通教育科目、学科の専門科目等から卒業要件としている科目の単位を修得することにより、卒業の認定に関する方針で示した能力を修得できるようカリキュラムを組んでいる。 卒業認定は、学則で定める「卒業に必要な最低修得単位数」、を修得しているか否かによる。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	金城学院大学
設置者名	学校法人 金城学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
財産目録	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
事業報告書	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html
監事による監査報告(書)	https://www.kinjo-gakuin.jp/report/finance/index.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画)	対象年度: 2026 年度)
公表方法: https://www.kinjo-gakuin.jp/report/business/index.html	
中長期計画(名称: 金城学院中期計画)	対象年度: 2025～2029 年度)
公表方法: https://www.kinjo-gakuin.jp/report/business/index.html	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/evaluation/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/evaluation/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/)
(概要) 【文学部】 日本語あるいは英語または音楽演奏を通して言語運用能力や自己表出力、芸術的表現力を涵養するとともに、古今東西を視野に入れ文化を深く理解できる人材を養成する。異なる背景をもつ人々と協働しながら、歴史や文化を総合的・客観的に分析し、未来への展望を切り拓く能力を育成する。 【日本語日本文化学科】 日本文学だけではなく日本文化を広く探求し、その成果を発信する能力を育てる教育を進める。それと同時に、中学校、高等学校の教員養成の課程のほか、司書、司書教諭、博物館学芸員の資格課程および日本語能力検定試験に対応した日本語教員養成の授業科目も設置して、職業意識の高い人材を育成する。 【国際英語学科】 世界の多様な人々と協働し、主体的に社会に貢献する人材を養成する。そのために、卓越した英語力、明晰な思考力、優れた実践力を育成する。 【総合歴史学科】 歴史や文化に関する知識や技能を身につけ、多様な地域文化を理解する視点を持ち、日本、アジア、西洋の歴史や人々の活動を包括的に理解できる人材を養成する。現代社会の課題を深く理解し、主体的に考え、判断し、国際社会に貢献できる能力を育成する。 【音楽芸術学科】 演奏活動を通して鍛えた豊かな感性、芸術作品と芸術活動への理解に基づく洞察力、自己を律する強い精神力を活かし、音楽分野をはじめ社会の様々な分野で活躍しうる人材を育成する。 【英語英米文化学科】（※2026 年度より 学生募集停止） イギリス、アメリカをはじめとする英語圏の文化と言語を幅広く理解するとともに、高度な英語運用能力を養成する教育を進め、同時に、中学校、高等学校の教員養成の課程のほか、早期英語教育指導者養成プログラム、通訳士、翻訳士養成プログラム、エアラインプログラムを設け、日本と世界で活躍しうる人材を育成する。 【外国語コミュニケーション学科】（※2026 年度より 学生募集停止） フランス語、ドイツ語、中国語のいずれかと英語を活用できる人材を育成する。また、外国の文化を日本という視点に立って理解し、その文化の理解で得たものを日本社会で応用できる、より実践的な、社会に貢献できる人材を育成する。中学校、高等学校の教員のほか、外国人の母語を理解した日本語教員も養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)

(概要)

【日本語日本文化学科】

日本語日本文化学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(日本語日本文化学)の学位を授与します。

1. 学科の学びを通して、均質ではない文化の多様性を理解し、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて行動する力を身につけている。
2. 高度な日本語運用能力と日本文化に関する幅広い知識・教養を獲得することで、自らを客観的に省察できる知性が身についている。
3. 自身の問題意識に基づき、古代から現代までの各時代のいずれかについて探求することで、思考・判断する力や自立的な行動力、課題発見力が身についている。そしてその成果を的確に提示・発表することができる。
4. 文献資料・文化財・データベースなど、情報メディアを扱うリテラシーと汎用的技能を身につけ、適正に課題解決へと向けて取り組むことができる。
5. これまでに修得した知識・能力と、文化や社会に関する自らの考えを発信し、自他の文化への深い理解を基盤として、他者と対話・協働しつつ社会的諸問題にも対応することができる。

【国際英語学科】

国際英語学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(国際英語学)の学位を授与します。

1. 真理と正義を愛し、世界の平和と人類の福祉に貢献するための基本的な考え方と豊かな人間性を身につけている。
2. 英語とその背後にある文化や社会に関する専門知識を幅広く身につけている。
3. 高度な英語運用能力を身につけ、英語を用いて自分の意見や考えを口頭または文章で明確に伝えることができる。
4. 国際社会における課題を自ら見つけ、必要な情報やデータを収集・分析し、論理的に考察したうえで、結論を導き出すことができる。
5. ビジネス、教育、観光などの分野において、各々が国際的に活躍するために必要な知識と実践力を身につけている。
6. 隣人のために行動することを通して、他者をいたわり思いやる多文化共生社会実現の重要性を理解できる。

【総合歴史学科】

総合歴史学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(歴史学)の学位を授与します。

1. 歴史や文化の違いを超えて、他者を尊重し、他者と共感的に関わり、協働する豊かな人間性を有している。
2. 広い教養と、歴史・文化に関する基礎知識を身につけている。
3. 日本、アジア、西洋の歴史を学び、多様な地域文化を観る総合的な視点を有している。
4. 現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できる。
5. 異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、協働することができる。
6. 歴史と文化に関する学修成果を活かし、自身の思考力と判断力を用いて地域社会に貢献できる。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(音楽芸術学)の学位を授与します。

で、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(音楽芸術)の学位を授与します。

1. 強い精神力と向上心をもち、他者を尊重し協調していく豊かな人間性を身につけている。
2. 芸術文化の多様性を探究することによって音楽芸術を深く理解し、知識と創作や研究、演奏に関する技能を用いて、個性を活かした芸術活動を行うことができる。
3. 芸術作品や文化を分析・考察することにより豊かな感性と創造性を育み、自らの考えを適切に表現することができる。
4. 自己を律し、互いを尊重しながら課題に取り組むことで修得した協調性や判断力によって、新たな価値観を生み出すことができる。
5. 自らの強みを見出し、常識や前提にとらわれない柔軟な発想力をもって芸術文化の発展に取り組む、広く社会に貢献することができる。

【英語英米文化学科】（※2026 年度より 学生募集停止）

英語英米文化学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、英米の文化や英語に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解
 - (1) 高度な英語運用能力を持ち、英米の文化や英語に関する専門的知識と豊かな人間性を支える教養を身につけている。
2. 汎用的技能
 - (2) 英米の文化または英語の諸問題について、英米文化学・英米文学、英語学・言語学や英語教育学の研究方法を用いて適切に分析し考察することができる。
 - (3) 高度な英語運用能力を修得して、世界の多様な人々とコミュニケーションをとることができる。
3. 態度・志向性
 - (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
 - (5) 福音主義のキリスト教との出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて積極的に行動し、社会に貢献することができる。
4. 統合的な学修経験と創造的思考力
 - (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【外国語コミュニケーション学科】（※2026 年度より 学生募集停止）

外国語コミュニケーション学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、世界の言語や文化に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解
 - (1) 日本を含む世界の多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。
2. 汎用的技能
 - (2) 世界の言語や文化の諸問題についての情報を適正に収集し、さまざまな研究理論を用いて分析し考察することができる。
 - (3) 日本語をはじめ外国語や種々の表現方法を修得し、多様な人々とコミュニケーションをとることができる。
3. 態度・志向性
 - (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
 - (5) 福音主義のキリスト教との出会いを生かし、異なる価値観を持つ人々との共存に向けて積極的に行動し、社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力 (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【日本語日本文化学科】 日本語日本文化学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 - 日本語日本文化学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 - 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 - 専門教育科目では、【基礎科目】【基幹科目】【展開科目】【プロジェクト科目】【演習科目】の科目区分のもと、学生が日本語の運用能力や日本文学・日本文化に関する知識・教養を身につけ、さらにそれらを社会的に活用するための資格や技能を修得できるよう、カリキュラムを適切に編成します。 - 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。 - 古典文化・近現代文化・日本語学についての基礎的な知識と研究法を修得し、また資格・技能に関する入門的知識を修得するために【基礎科目】を設置します。 - 主体的な研究態度や思考力・分析力を養い、また汎用的技能の獲得に向けた、より深い学科の学びを実現するために、多数の専門的科目によって構成される【基幹科目】を設置します。 - 日本文化研究の視野を広げ、課題の発見と解決に取り組む専門知識の実践的応用力を養うために、多様な個別テーマを扱う科目によって構成される【展開科目】を設置します。 - 自律性や協働性の向上を図るために、グループ活動などを通して日本文化を体験的に理解することを主眼とする【プロジェクト科目】を配置します。 - 学生が修得した知識・技能を総合的に活用して、日本の文化や社会について探求した成果を、論理的に表現し、また発信できる能力を養成するための【演習科目】を設置します。 2. 教育方法 - 講義科目においては、知識・教養の修得を中心とするものであり、適正な履修上限人数を設定して実施します。 - 演習科目においては、修得した知識・教養を総合的に活用し、少人数制によってきめ細かに実施します。

3. 実験・実習科目においては、体験性を重視し、また技能の修得に主眼を置いて実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【国際英語学科】

国際英語学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

1. 国際英語学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
3. 専門教育科目では、【基礎科目】【基幹科目】【展開科目】【演習科目】の科目区分のもと、英語力の向上、英語とその背後にある文化の研究、および社会での実践を意識した学びを修得できるよう、カリキュラムを適切に編成します。
4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、英語力の基礎を固め、英語圏文化、英語という言葉、および国際社会に関する基本的知識を修得するとともに、思考力を培うための基礎を身につけるようにします。
5. 習熟度別クラスによる少人数教育を基本とした【基幹科目】を編成し、英語力の向上を効果的・継続的に図ります。
6. 英語圏文化学、英語学、英語教育学の体系性に基づき、【基礎科目】【展開科目】を設置して英語力、思考力、実践力を高めるカリキュラムを編成します。
7. 学生が身につけた知識・技能・態度を総合的に活用できるように【演習科目】を編成します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、英語とその背後にある文化の理解を目的とし、知識を体系的に教授するとともに学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができるような教育方法を実施します。

2. 演習科目においては、豊かな人間性を身につけ、英語力、思考力、実践力を培うことを目的とし、学生が自ら問題意識をもって主体的に探究し、その結果を論理的に説明する力を獲得できるような教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【総合歴史学科】

総合歴史学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

1. 総合歴史学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
3. 専門教育科目では、歴史学の体系性に基づき、【基礎科目】【基幹科目】【展開科目】【演習科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
共通教育科目における初年次教育では、広い教養の修得及び本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、歴史・文化に関する基礎知識の修得及び論理的思考能力の向上を図ります。
5. 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合的に活用できるように、「卒業研究プロジェクト」を配置し、自身の思考力と判断力を用いて地域社会に貢献できる力を養います。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、歴史・文化に関する知識の修得を目的とし、学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができる教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、現代社会における課題の発見と解決に主体的に取り組み、自身のことばで発信できる力を養う教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、異なる歴史的背景をもつ人々と相互に理解し、

- 協働することができる力を養うプログラムを編成して実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
 5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

1. 音楽芸術学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
3. 専門教育科目では、音楽芸術学の体系性に基づき、【音楽基礎】【個人レッスン】【ゼミ・研究】【音楽応用】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、音楽を総合的に捉えることができるよう、音楽の基礎を演奏技術、音楽理論の両面から学べる科目を編成し、その能力の向上を図ります。
5. 学生が身につけた知識・技能・態度を、社会に出て総合的に活用できるように【プロジェクト科目】を編成します。
6. 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に【ゼミ・研究】を編成します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、音楽芸術に対する総合的な理解を深めることを目的とし、芸術文化の多様性を学び、学生が自ら関心を持ち主体的に学ぶことができるような教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、豊かな感性を身につけ、少人数できめ細やかな指導によって芸術作品や文化を分析・考察することを目的とし、学生が主体的に課題を探究し、その結果を自らの価値観を持って能動的に発表する力を得ることができるような教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、知識や技能、協調性を身につけ、柔軟な発想力と探究心をもって社会貢献出来る人材を育成するプログラムを編成し

て実施します。

4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【英語英米文化学科】（※2026 年度より 学生募集停止）

英語英米文化学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、多角的に考える力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が英語の高度な運用能力を身につけると同時に英米文化学・英米文学、英語学・言語学、英語教育学、通訳・翻訳学に関する専門的知識を身につけるように、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。専門分野の体系性に基づき、適切な内容の授業を編成します。
- (4) 学生が英語の高度な運用能力を身につけるように、「基幹科目」を設置し、英語で読む、聞く、書く、話すことの4技能を教育するよう科目を編成します。
- (5) 学生が英米文化学・英米文学、英語学・言語学の基本的知識を身につけるように「基礎科目」を設置し、概論を教育します。さらに「展開科目」を設置し、上記の分野、および英語教育学、通訳・翻訳学等の発展的な内容を教育するよう科目を編成します。
- (6) 通訳・翻訳の専門技能を身につけることを目指す学生のために、「展開科目」および「演習科目」を設置し、きわめて高度な英語運用能力と通訳技法を教育するよう科目を編成します。
- (7) 学生が他者の立場や見解を理解しつつ、自らの意見を発信する力を養うように、「演習科目」を設置し、プレゼンテーションとディスカッションの指導を行い、意見交換を重視した教育を行うよう科目を配置します。
- (8) 学生が英米文化学・英米文学、英語学・言語学および英語教育学の研究方法を用いて課題を適切に分析・考察し、その成果を論文にまとめる力を身につけるように、卒業年次に「卒業研究」を設置します。

2. 教育方法

- (9) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・

ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。

- (11) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (12) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (13) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

- (14) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。
- (15) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。

【外国語コミュニケーション学科】（※2026 年度より 学生募集停止）

外国語コミュニケーション学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、さまざまな言語と文化を扱う本学科の専門性を踏まえた表現方法を修得し、多角的に考える力の向上を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が世界の言語や文化に関する知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) さまざまな研究理論と幅広い地域の文化を学ぶ「基礎科目」「展開科目」を設置して、さまざまな言語と文化に関して深く理解できるよう科目を編成します。
- (5) 外国語の高度な運用能力を身につけるために「基幹科目」を設置して、国内外で活躍できる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。
- (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業研究プロジェクト」を設置します。

2. 教育方法

- (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (10) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。

(12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。 3. 評価 (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)に基づき、個々の教員が適正に評価を実施します。 (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、アセスメント・ポリシーは別に定めます。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【日本語日本文化学科】 日本語日本文化学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、日本語・日本文学・日本文化について幅広く関心を持つと同時に、文化の多様性を意識して他者との共存を志向する人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修を通じて、国語、地理・歴史についての十分な学力を有し、日本語・日本文学・日本文化を学ぶための基礎的知識・技能を身につけている学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 高等学校等における学修を通じて、日本語・日本文学・日本文化の研究に必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている学生を求めます。 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 主体的に日本文化の研究に取り組むとともに、多様な価値観を持つ人々と対話・協働して、現代社会に貢献する意志のある学生を求めます。 【国際英語学科】 国際英語学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、英語とその背後にある文化に関心をもち、高度な英語運用能力を身につけることを通して、国際的に社会に貢献する人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修により、全般的な基礎学力を身につけているとともに、英語の基本的な読解力および表現力と正しい文法知識を有しており、大学において高度な英語運用能力の修得に強い意欲のある学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 英語とその背後にある文化に対する幅広い関心と探求心を備えており、これらを研究し、その成果を発表することを通して、明晰な思考力、的確な判断力、豊かな言語表現力を身につけることを目指す学生を求めます。 2. 通訳、エアライン、英語教育、観光、ビジネスなどの分野に興味をもち、身につけた能力を国際社会で発揮する意欲のある学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 身につけた英語力、思考力、実践力を生かし、自ら主体的に世界の多様な人々と協働しながら社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。

【総合歴史学科】

総合歴史学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、日本、アジア、西洋の歴史や文化に関心を持ち、多様な地域文化を観る総合的な視点を通して、国際社会に貢献する人材を養成します。そのため入学に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。

1. 知識・技能

1. 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力を身につけているとともに、多様な地域の歴史や文化に関心を持ち、主体的に知識・情報を獲得しながら高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

1. 人類が作り上げてきた歴史や文化に好奇心をもって深く学び、多角的で総合的な視点から、社会の課題に主体的に取り組む学修意欲をもつ学生を求めます。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

1. 自らを律し、専門的に学んだことを生かし、多様な人々と社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。

【音楽芸術学科】

音楽芸術学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、芸術文化ならびに音楽芸術に関する知識と技能を身に付け、芸術活動を行う事を通して他者と尊重し協調しながら、柔軟な発想力をもって様々な分野で社会に貢献し得る人材を養成します。そのため入学に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。

1. 知識・技能

1. 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力を身につけているとともに、音楽芸術の基礎的な知識と技術を有しており、大学において高度な芸術文化の知識と音楽芸術の技能を習得し、芸術活動に意欲的に取り組むことのできる学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

1. 芸術文化や音楽芸術に対する幅広い興味と探究心を持ち、学びと発表の場を通して豊かな感性と創造性を育み、自らの考えを適切に表現することを目指す学生を求めます。
2. 演奏、音楽教育、創作、研究、音楽ビジネスなどの分野に深く関心を持ち、身につけた知識・技能と新たな価値観をもって社会的な活動を行う意欲のある学生を求めます。

3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度

1. 自己を律し、互いを尊重しながら課題に取り組むことにより自らの強みを見出し、常識や前提にとらわれない柔軟な発想力をもって広く社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。

【英語英米文化学科】（※2026年度より 学生募集停止）

英語英米文化学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、言語や文化に関心を持ち、異なる価値観を持つ人々と共存することの重要性を理解している学生を求めます。そのため入学に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、高度な英語運用能力を身につけるのに必要な基盤となる英語読解・表現能力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 (2) イギリス、アメリカをはじめとする英語圏の文化および言語に対する幅広い関心と探求心を備えた人、高度な英語運用能力を獲得することに対して強い学修意欲を持つ学生を求めます。 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (3) 専門的に学んだことを生かし社会に貢献する熱意を持つ学生を求めます。 【外国語コミュニケーション学科】（※2026年度より 学生募集停止） 外国語コミュニケーション学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、言語や文化に関心を持ち、異なる価値観を持つ人々と共存することの重要性を理解している学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。 また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 1. 知識・技能 (1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力に加え、国語、英語、地理・歴史の学力を有し、幅広い教養と高い専門性の修得をめざしている学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 (2) 言語、文化、社会に関わる学問領域の課題を追求し、理解を深め、社会に向けて発信しようとする学生を求めます。 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (3) 自律的に研究に取り組み、積極的に社会へ貢献しようとする学生を求めます。
--

学部等名 経営学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/) (概要) 【経営学部】 企業、行政、NPO などでの経営や社会課題に関心をもち、経営、マーケティング、会計、生活に関する高度な知識と技能を身につけた人材を養成する。様々な問題を包括的に分析し、他者との協力関係を重視しながら、解決に向けて行動できる能力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【経営学科】 経営学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(経営学)の学位を授与します。 1. 経営課題・社会課題に高い関心をもち、倫理的な判断に基づいて、隣人や社会のために貢献できる豊かな人間性を有している。 2. 自分が理想とするキャリアを実現するために「組織・戦略」「マーケティング・クリエイティブ」「会計・ファイナンス」「生活・社会」の各領域の基礎的・専門的知識を身につけている。 3. 様々な経営課題・社会課題について、基礎的・専門的知識に基づいて分析し、その対策を理論に基づいて総合的に考え、発案することができる。 4. 各領域の基礎的・専門的知識に基づいた広い視野をもち、様々な経営課題・社会課題を解決するためのイニシアティブを他者と協働しながらとることができる。

5. 身につけた知識・技能、思考力・判断力、表現力を、経営課題・社会課題を解決するために発揮することに、強い関心と意欲を有する。 6. 多様なステークホルダーの視点、考え方、文化を理解し、他者と協力的な関係を構築する意欲を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【経営学科】 経営学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 - 経営学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 - 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 - 専門教育科目では、経営学の体系性に基づき、【専門基幹科目】【専門展開科目】【専門応用科目】【演習科目】の科目区分のもと、学生が組織・戦略、マーケティング・クリエイティブ、会計・ファイナンス、生活・社会に関する知識・技能を修得できるよう、カリキュラムを適切に編成します。 - 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。 共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、経営に関する基礎知識の修得及び論理的思考能力の向上を図ります。 - 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合的に活用できるように「卒業論文」「経営研究プロジェクト」を設置します。 2. 教育方法 - 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、経営学の基礎的理解を目的とし、知識を体系的に教授するとともに学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができる教育方法を実施します。 - 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、思考力と判断力を培いながら、社会における課題の発見と解決に主体的に取り組む力を獲得できるような教育方法を実施します。 - 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 - アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。 3. 評価 - 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・

授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。
入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【経営学科】 経営学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、経営課題・社会課題に高い関心を持ち、経営、マーケティング、会計、生活に関する高い知識と技能を通して、他者との協力的な関係のなか社会に貢献できる人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力を身につけているとともに、経営課題・社会課題に高い関心を持ち、組織体の経営、マーケティング、会計、生活に関する学修に意欲的に取り組むことのできる学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 経営に関して好奇心をもって深く学び、多角的で総合的な視点から、現代社会の課題に主体的に取り組む学修意欲をもつ学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 自らを律し、専門的に学んだことを生かし、他者と協力しながら、社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。

学部等名 人間科学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/)
(概要) 【人間科学部】 「発達する存在」「心理的存在」「支えあう存在」の3つを人間理解の中核に置き、それぞれに対応した学科において専門的理解を深めるとともに、人間への総合的な探求を学部教育の基本的理念として掲げ、急激に変化する現代社会のなかで個人としても職業人としても自律的に生きていくことのできる人材を育成する。 【現代子ども教育学科】 人間の生涯発達のなかで、とくに乳幼児期から児童期に至る発達の初期段階に重点をおいて、子どもに関わる心理、教育、保育、福祉、文化などの領域を幅広く学び、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭、中学校教諭として、また育児支援センターなど家族支援を含む各種の機関で活躍することのできる専門的力量を持った人材を育成する。 【多元心理学科】 心理学の基礎的事項を幅広く学ぶことにより、人間の精神的活動と社会的行動への理解を深めることを目指す。学生の学習興味および将来設計に応じて、より専門的な心理学の知識と技能を選択的に学習することにより、現代社会が抱える多様な課題に柔軟に対処し、心の専門家として貢献できる人材を育成する。 【コミュニティ福祉学科】（※2026年度より 学生募集停止） 少子高齢社会を迎え、福祉社会の形成が求められる今日、社会福祉学・人間福祉学を理論、実践の両面から幅広く学び、社会福祉の現場、さらに保健、医療、教育、住環境など多様

な領域で活かせる社会福祉の専門的な知識、技術を習得し、生活者の視点からコミュニティ形成を担う人材を育成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【現代子ども教育学科】

現代子ども教育学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(人間科学)の学位を授与します。

1. 多様な価値観や文化をもつ他者を理解し、尊重する幅広い教養と豊かな人間性を身につけている。
2. 子ども、保護者や家庭、保育・教育全般に関する基礎的知識と専門職としての高い倫理観を身につけている。
3. 子どもの成長・発達を促す教育者・保育者として必要となる専門的知識と実践的な指導・援助方法を身につけている。
4. 教育者・保育者としての専門性を深め、資質・能力の向上に向けて学び続ける姿勢を身につけている。
5. 教育者・保育者に求められる専門性や役割を科学的・多面的に俯瞰する視点・態度を身につけている。
6. 多様な意見や考え・立場を尊重し、同僚や多職種と協働・連携し、子どもが幸福に生きられる社会の形成に貢献する力を身につけている。

【多元心理学科】

多元心理学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、主に社会心理学、臨床心理学、健康心理学、産業心理学、発達・教育分野の心理学、医療・福祉分野の心理学の専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解
 1. 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、心を生み出す仕組み・心理学の諸理論・心理学的測定法と心理アセスメント・心理学実験に関する深い専門的知識を身につけている。
2. 汎用的技能
 1. 調査面接・観察・実験などから得られた情報を適正に収集分析し、色々な角度から批判的実証的に考えることで、現代社会に生きる人間が抱える問題を発見し、解決策を提案することができる。
 2. 多様な人々とコミュニケーションするために、人間を複眼的に見る方法や種々の表現方法を修得している。
3. 態度・志向性
 1. 自らを律し、人間を総体として客観的に理解しながら、他者と協働して目標実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
 2. 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、心の専門家として貢献することができる。
4. 統合的な学修経験と創造的思考力
 1. これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

【コミュニティ福祉学科】(※2026年度より 学生募集停止)

コミュニティ福祉学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、これからの新しい生

き方、地域づくりを担う「ソーシャルウーマン＝社会に積極的に参加し、多様な地域住民とともに、すべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくる女性」の養成に資する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、福祉課題の解決およびコミュニティ形成に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- (2) コミュニティにおける生活と福祉に関する情報を適正に収集・分析し、多様な角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。
- (3) 福祉課題の解決およびコミュニティ形成に関する技法や種々の表現方法を修得し、様々な体験を通じて多様な人々とコミュニケーションをとることができる。

3. 態度・志向性

- (4) 自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。
- (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、困難を抱えている人々を支援するために主体的に行動し、コミュニティや社会に貢献することができる。

4. 統合的な学修経験と創造的思考力

- (6) これまでに修得した知識・技能・態度などを総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>)

(概要)

【現代子ども教育学科】

現代子ども教育学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- 現代子ども教育学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
- 専門教育科目では、教育・保育に関する諸学問の体系性に基づき、【学科基礎科目】【金城子ども教育プログラム】【学科展開科目】【演習科目】【卒業論文】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
- 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる科目を編成し、基礎的知識・技能の習得および協調性・プレゼン能力・論理的思考力の向上を図ります。また早

期体験学修を通じて教育者・保育者を目指す学生としての自覚を促します。

5. 学生が身につけた知識・技能・態度を総合的に活用できるように【金城子ども教育プログラム】にプロジェクト科目を編成します。
6. 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合的に活用できるように、卒業年次に「卒業論文・卒業制作」を設置します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、適正な履修上限人数を設定し、学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができる教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、学生が自ら問題意識をもって主体的・対話的に深く学ぶことができる教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【多元心理学科】

多元心理学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目及びその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

1. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育及び外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
2. 初年次教育では、学生が大学での学問的・社会的な諸条件を成功させるために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。
共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。
専門教育科目における初年次教育では、心とは何かを理解し、心と行動の関係を考えるため、論理的思考能力の向上を図ります。
3. 専門教育科目では、学生が心理学の知識・スキルを身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
4. 心理学の体系性に基づき、「学部共通科目」「学科基礎科目」「学科展開科目」「演習科目」「卒業論文」「資格関連科目」の科目区分の下、適切な内容の授業を編成します。
5. 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、

卒業年次に卒業論文等を実施します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては心理学の潮流と心の科学への取り組みの基礎的理解を目的とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、心を研究する学問知とフィールド知の双方向性を理解することを目的とし、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、研究手法の技術修得を目的とし、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
4. すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。

3. 評価

1. 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力及びこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
2. 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準及び具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)を別に定めます。

【コミュニティ福祉学科】（※2026年度より 学生募集停止）

コミュニティ福祉学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびそのほか必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、【学科基礎科目】においてソーシャルウーマンのロールモデルについて理解を深めるとともに、人間関係トレーニングを通じて、援助的コミュニケーションの基礎的内容として自己理解、自己覚知を促します。
- (3) 専門教育科目では、学生が社会のあらゆる場で福祉マインドを実践できるソーシャルウーマンとしての知識・技能・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 「基礎科目」、「展開科目」を設置して、「社会そうぞう力」、「協働実現力」、「問題解決力」を身につけたソーシャルウーマンとして社会で幅広く活躍できる知識・技能を修得できるよう科目を編成します。
- (5) 体験型学修を通して福祉課題の解決およびコミュニティ形成を担う現場への理解を深めることができるよう「ソーシャルウーマン実践科目」を設置し、福祉マインドを

実践する力の向上を図ります。また、多様化・複雑化・深刻化しつつある生活問題を専門職として解決を図るソーシャルワーカーの訓練、指導を図るために「ソーシャルワーカー実践科目」を編成します。 (6) 学生が身につけた知識・技能や態度を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。 (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に「卒業論文」、もしくは「国家試験対策科目」ならびに「卒業研究」のいずれかを選択必修できるよう編成します。 2. 教育方法 (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニングなどを取り入れた教育方法を実施します。 (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導体制を整え、ディープ・アクティブ・ラーニングなどを取り入れた教育方法を実施し、プレゼンテーション技術やコミュニケーション力の修得を図ります。 (10) 実習および研修、実践科目においては、サービスラーニング型の体験や実習、研修を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力と判断力を養うプログラムを編成します。 (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザーがそれぞれの学生と面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を実施します。 3. 評価 (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらを総合的に活用する力を確実に身につけられるように、学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)に基づき、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。 (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質の水準および具体的な実施方法などに関するアセスメント・ポリシーを別に定めます。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【現代子ども教育学科】 現代子ども教育学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、豊かな人間性と高い倫理観を土台にして、教育者・保育者としての専門性を高め、子ども達が幸せに生きる社会の形成に貢献する人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の 3 つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修により、全般的な基礎学力を身につけ、教育者・保育者として必要となる専門的知識・技能の習得に強い意欲を持つ学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 科学的・多面的視点から、子どもと子どもを取り巻く環境を俯瞰し、課題の発見とその解決に、主体的に取り組む意欲を持つ学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 身につけた専門性を活かし、同僚や多職種と協働・連携し、子どもが幸福に生きる社会の形成に貢献する熱意を持つ学生を求めます。 【多元心理学科】 多元心理学科では、本学の建学の精神を踏まえた人材育成(教育目的)を尊重し、本学科の
--	--

教育目標を踏まえ、自己と他者の理解に関心を持ち、心理学の学修に積極的に取り組む意欲のある学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

1. 高等学校等における学修を通じて、文学などに表現される人間模様について想像力を持って理解することや、社会的事象に関心を持って理解を深めることができる学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

1. 人間に対する共感的な関心に加え、人間の心理と社会などの事象について、客観的・分析的な視点から課題を探究し、自身の考えについて論理的に説明ができる学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

1. 自身の考えを他者に伝える、他者の考えに耳を傾け理解するなど、他者を尊重しつつ自己主張ができる学生を求めます。

【コミュニティ福祉学科】（※2026年度より 学生募集停止）

コミュニティ福祉学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、これからの新しい生き方、地域づくりを担う「ソーシャルウーマン＝社会に積極的に参加し、多様な地域住民とともに、すべての人々が幸せに暮らすことができる社会をつくる女性」をめざし、ボランティア活動、地域活動、社会貢献活動に関心が高い人、さらに専門性の高いソーシャルワーカーをめざす意欲的な学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

- (1) 高等学校等における学修を通じて、全般的な学力とともに、社会系の科目に関心のある人や高校で福祉関連の科目を履修した学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

- (2) 社会の中の様々な課題に関心を持ち、意欲的に課題の理解や解決に向けて取り組もうとする学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- (3) 多様な人々とつながりをつくり、社会に積極的に参加していこうとする学生を求めます。

学部等名 デザイン工学部

教育研究上の目的

(公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/>)

(概要)

【デザイン工学部】

他者を思いやる心と豊かな視点を持ち、幅広い工学知識や高度な技能、未来を切り拓くための確かな実践力を身につけた人材を養成する。人間の感性と社会との調和を大切にし、多様な人々と協力しながら、共生社会を実現するための能力を育成する。

【建築デザイン学科】

住居、建築、インテリア、都市の工学的な知識・技術と芸術的な感性を統合して、インクルーシブデザインの視点から総合的な生活環境をデザインできる人材を養成する。人や地域が抱える潜在的・顕在的な課題を把握し、新しい視点で共生社会の発展に寄与できる能力を育成する。

【情報デザイン学科】 日々変化する情報技術の分野において、幅広い知識と高度な技術、豊かな教養をもち、システムの提案やデジタルコンテンツの制作に取り組むことのできる人材を養成する。他者と協働しながら、社会課題の解決に向けた方策を提案し、共生社会を実現するための能力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【建築デザイン学科】 建築デザイン学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を満たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(デザイン工学)の学位を授与します。 1. 文化や社会に高い関心をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。 2. インクルーシブデザインの視点に基づき、多様な人々の生活を捉えることができる。 3. 住居、建築、インテリア、都市を対象とした建築デザインに関する工学の知識・技術を身につけている。 4. 専門的知識や技術と芸術的感性を統合して、安全かつ質の高い生活環境をデザインする手法を理解している。 5. 地域や社会の課題に対し、自らが幅広く収集、分析した情報をもとに建築デザインを提案することができる。 6. 建築デザインの専門的役割を認識し、様々な分野の人々と協働しながら共生社会の実現に向けて実践する力を身につけている。 【情報デザイン学科】 情報デザイン学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を満たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(情報デザイン学)の学位を授与します。 1. 情報社会の理解に必要な教養と豊かな人間性を身につけ、主体的に行動する力を有している。 2. 情報工学ならびに数理・データサイエンス・AIの知識・技術を身につけている。 3. 社会課題の解決に向けてソフトウェアやシステムを提案したり、デジタルコンテンツを制作したりすることができる。 4. 課題解決のための方策を計画し、他者と協働しながら実行することができる。 5. 修得した思考力・行動力・提案力を総合的に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【建築デザイン学科】 建築デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容

1. 建築デザイン学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
3. 専門教育科目では、建築デザイン学の体系的に基づき、【専門科目】【演習科目】【研修科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、建築デザインと社会の関係を考える基盤となる知識の修得及び論理的思考力・表現力・協働する力の向上を図ります。
5. 学生が社会や地域との関わりを通じた実践的な課題に取り組むプロジェクト科目を編成します。
6. 学生が修得した知識・技能・感性を総合的に活用する【演習科目】を編成します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、建築デザイン学の体系的な理解を目的とし、学生が自ら関心をもって知識のつながりを探索し、主体的に学ぶことができるような教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、豊かな人間性を身につけ、建築デザイン学の視点に基づいて社会を把握する力を培うことを目的とし、対話などを通じて生活環境に関する課題を発見し、それを論理的に説明する力を獲得できるような教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、建築デザイン学の知識・技術・感性を統合する力を培うことを目的とし、問題意識に基づいて発案、表現、提案するプロセスを学生が能動的に進めることができるような教育方法を実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【情報デザイン学科】

情報デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系的性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。
教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容 1. 情報デザイン学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 3. 専門教育科目では、情報デザイン学の体系性に基づき、【学科基礎科目】【学科専門科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。 共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図り、情報教育を実施します。専門教育科目における初年次教育では、高校から大学への橋渡しとなる科目を編成し、基本的知識の修得および協調性・プレゼン能力・論理的思考力の向上を図ります。また早期体験学修を通じて情報デザイン学科の学生としての自覚を促します。 5. 学生が身につけた知識・技能を総合的に活用できるように【演習科目】を編成します。 6. 学生が身につけた知識・技能を社会に応用して実践する【プロジェクト科目】を編成します。 7. 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合的に活用できるように【卒業論文・卒業制作・卒業PJ】を編成します。 2. 教育方法 1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、情報デザイン学を体系的に理解することを目的とし、学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができる教育方法を実施します。 2. 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を实践し、学生が自ら問題意識をもって主体的・対話的に深く学ぶことができる教育方法を実施します。 3. 実験・実習科目においては、社会や地域への理解を深めるために必要とされる、現場における観察力、洞察力、思考力を養うプログラムを実施します。 4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。 3. 評価 1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
--	---

(概要) 【建築デザイン学科】 建築デザイン学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、住居、建築、インテリア、都市に関する高い知識と技能を通して、共生社会の発展に寄与できる人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力を身につけているとともに、住居、建築、インテリア、都市に関する知識と技術の修得に意欲的に取り組むことのできる学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 建築に関わる工学の知識と芸術的な感性を統合して、地域や社会の課題を解決しうる建築デザインの提案に向けて主体的に取り組む学修意欲をもつ学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 自らを律し、専門的に学んだことを生かし、他者と協力しながら、社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。 【情報デザイン学科】 情報デザイン学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、情報工学ならびに数理・データサイエンス・AIの知識・技術に関する高い知識と技能を通して、他者と協働しながら社会の諸問題の解決に向けた提案ができる人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修を通じて、全般的な基礎学力を身につけているとともに、情報工学の高い知識と技術を修得し、ソフトウェア開発やデジタルコンテンツ制作に意欲的に取り組むことのできる学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 情報工学、数理・データサイエンス・AIに関して好奇心をもって深く学び、多角的で総合的な視点から、現代社会の課題に主体的に取り組む学修意欲をもつ学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 自らを律し、専門的に学んだことを生かし、他者と協力しながら、社会に貢献する熱意をもつ学生を求めます。
--

学部等名 生活環境学部
教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/)
(概要) 【生活環境学部】 現代人の健康保持や疾病予防に取り組み、食育を進める管理栄養士を養成する。基礎学力を重視して幅広い専門科目の分野横断的理解と、専門的な問題解決能力の養成を図る。ライフスタイルや生活環境と関連付け、生活を科学的に究明する力やトータルに食と健康を管理する能力を養成する。 【食環境栄養学科】 現代人の健康保持や疾病予防に取り組み、食育を進める管理栄養士を養成する。基礎学力

を重視して幅広い専門科目の分野横断的理解と、専門的な問題解決能力の養成を図る。ライフスタイルや生活環境と関連付け、生活を科学的に究明する力やトータルに食と健康を管理する能力を養成する。

【生活マネジメント学科】（※2026年度より 学生募集停止）

環境を生活者の視点からとらえ、家族生活、消費生活における課題解決に必要な専門知識、技術を習得し、家族福祉、消費者福祉を達成しうる人材育成を目指す。情報活用能力と自己実現を目指す生活設計能力を開発し、より高い生活の質を実現するライフスタイルと生活環境のあり様を提案できる力を養成する。

【環境デザイン学科】（※2026年度より 学生募集停止）

豊かで望ましい衣環境、住環境、地域環境の実現に取り組む人材を育成する。生活者の視点から、ユニバーサルデザイン、アメニティ、環境共生をキーワードとした「人と環境にやさしいモノづくり」を学問的に究明するとともに、自ら実践ないし創造する技術的、政策的能力を養成する。

卒業又は修了の認定に関する方針

（公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/>）

（概要）

【食環境栄養学科】

食環境栄養学科では、学則第1条を踏まえ、所定の124単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士（生活環境学）の学位を授与します。

1. 隣人のため社会のために高い自己管理能力をもって主体的に行動し、倫理的な判断に基づいて社会に貢献することができる。
2. 多様な人々の生活環境や文化的・社会的背景を理解し、食と健康に対する深い専門的知識・技能・態度等を身につけている。
3. 食と健康に関する課題に取り組む基礎能力を身につけ、情報を適正に取り扱い、さまざまな角度から論理的に考えることができる。
4. 修得した専門的知識・技能・態度等を総合的に活用し、評価することで豊かな食生活を実現する能力を身につけている。
5. チーム医療や地域の健康増進の担い手として、多職種の立場や見解を理解・尊重し、協調性をもってすべての人々の生活の質の向上に寄与することができる。
6. 管理栄養士として常に科学的探究心を持ち、新たな知見を踏まえ自ら課題を見出し、解決することができる。

【生活マネジメント学科】（※2026年度より 学生募集停止）

生活マネジメント学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。

1. 知識・理解

- （1）多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と消費生活・家族福祉・情報活用に関する深い専門的知識を身につけている。

2. 汎用的技能

- （2）消費生活・家族福祉・情報活用についての情報を適正に収集・分析し、自らの生活や社会において活用するために、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、解決を図ることができる。
- （3）消費生活・家族福祉・情報活用に関する諸課題について、他者の立場や見解を理解・尊重するとともに、科学的な基盤に立ちながら自らの考えを適切に表現し伝えることができる。

3. 態度・志向性

(4) 自らを律し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現という目標を目指して行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、生活者の視点から社会に貢献することができる。 4. 統合的な学修経験と創造的思考力 (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、消費生活・家族福祉・情報活用に関する新たな課題に取り組むことができる。 【環境デザイン学科】（※2026年度より 学生募集停止） 環境デザイン学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、生活環境(衣環境や住環境)に関する専門的知識・技能・デザイン力を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。 1. 知識・理解 (1) 多様な文化を理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と、衣環境もしくは住環境に関する深い専門的知識を身につけている。 2. 汎用的技能 (2) 情報を適正に収集・分析し、さまざまな角度から論理的に考えることで問題を発見し、その問題の構造を学問的に究明し、問題解決を図るための具体的方策を提案することができる。 (3) 異なった立場の人々の意見を傾聴・理解し、調整しながら、問題解決へと向かうことができる。 3. 態度・志向性 (4) 自らを律し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現という目標を目指して行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、生活者の視点から社会に貢献することができる。 4. 統合的な学修経験と創造的思考力 (6) これまでに修得した知識・技能・デザイン力・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。	教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【食環境栄養学科】 食環境栄養学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 - 食環境栄養学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 - 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 - 専門教育科目では、管理栄養士養成の体系性に基づき、【学科基礎科目】【学科プロジェクト科目】【専門科目】【研究演習科目】【栄養教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
---	---

4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
5. 学生が専門教育科目を中心に修得した知識・技能を総合的に活用できる力を身につけるために【研究演習科目】を編成し、実験または調査を実施して卒業論文等を作成します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、豊かな人間性を身につけ、管理栄養士に必要な専門的知識の修得を目的とし、学生が自ら関心をもって能動的に学ぶことができる教育を実施します。
2. 演習科目においては、知識・技能・態度を修得することに加え、協調性や情報の適切な取り扱い、論理的思考力を養う教育を実施します。
3. 実験・実習科目においては、知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

【生活マネジメント学科】（※2026年度より 学生募集停止）

生活マネジメント学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目は、建学の精神に基づく「金城アイデンティティ科目」、本学の教育の核である英語教育および外国語教育、キャリア教育からなる「金城コア科目」、幅広い教養を身につける「金城展開科目」の下、授業を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、洞察力・論理的思考力・批判的思考力・多角的に考える力、さらにプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力など大学生として必要な基本的能力の向上を図ります。また学科の専門性を踏まえたレポート作成の勉学を通して授業態度と自己学修の方法を修得します。
- (3) 専門教育科目では、学生が消費生活・家族福祉・情報活用に関する専門分野の知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 専門分野の体系に基づき、「基礎科目」、「展開科目」を設置して、生活の課題解決に必要な専門知識・技能を修得する内容の授業を編成します。また学生が身につけた知識・技術を活用し実践力を修得するために各学年に研究演習科目を設置します。

- (5) 学科の専門性を生かした資格と職業の履修モデルとして、「ファイナンシャルプランナー養成コース」と「教員・公務員養成コース」の2コースを設置し、それぞれに「コース必修科目」、「コース選択科目」、また「コース共通科目」を編成します。
- (6) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究を実施します。

2. 教育方法

- (7) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (8) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
- (9) 実習科目においては、知識や技能を身につけ、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
- (10) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
- (11) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。

4. 評価

- (12) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、大学レベル、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。
- (13) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)を別に定めます。

【環境デザイン学科】（※2026 年度より 学生募集停止）

環境デザイン学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を、順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実験・実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。

教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。

1. 教育内容

- (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・理解、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。
- (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、学科での学びに対する動機づけを図る科目、大学での学びのための基礎力を身につける演習、デザイン基礎力を身につける実習・演習を設け、専門的知識と技能およびデザイン力を身につける環境デザイン学科独特の学びへの理解を深め、円滑な移行を図ります。
- (3) 専門教育科目では、学生が生活者の視点で豊かな生活環境(衣環境や住環境)とは何かについて分析・考察し、学問的に究明するための知識・技能・デザイン力・態度を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。
- (4) 生活環境学(衣環境や住環境)の体系性に基づき、「学科基礎科目」「展開科目」を設置して、それぞれの専門分野で幅広く活用できる応用的な知識・技能・デザイン力を修得できるよう授業を編成します。

(5) 多様な文化、異なった立場の隣人や社会のために貢献できるようインクルーシブデザインの考え方を取り入れます。また「研修科目」を編成し、多様な文化、環境に根ざした国内外の優れたデザイン作品、その周辺環境や人々に触れ、豊かな生活環境について理解を深めるための機会を設けます。 (6) 専門的な知識や技能を活用しながら、社会で活躍できる人材を育成するために、資格取得を支援する科目を設置します。 (7) 学生が専門教育科目を中心とする教育内容を総合化し活用できるように、卒業年次に卒業研究に関する科目を設置します。その成果は、発表会・展示会を通して、学内外の人々に発信します。 2. 教育方法 (8) 講義科目においては、履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。必修・コース必修・資格必修の実験・実習科目では、それぞれ適正な人数で授業を行います。 (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。 (10) 実験・実習科目においては、知識や技能、また科目によってはさらにデザイン力を身につけ、思考力と実践力を養うプログラムを編成して実施します。 (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。 3. 評価 (13) 本学では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。 (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、達成すべき質的水準および具体的な実施方法などに関する学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)を別に定め、多面的な評価を行います。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【食環境栄養学科】 食環境栄養学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、管理栄養士として社会で活躍できる能力を身につけた人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の 3 つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 1. 知識・技能 1. 高等学校等における学修を通じて全般的な基礎学力を有するとともに、食と健康に強い関心を持ち管理栄養士に必要な専門的知識・技能・態度等を身につける意欲がある学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 1. 食と健康に対する幅広い関心と探求心を備えており、食と健康に関する課題への理解を深め、情報を適正に取り扱い、論理的に考え、それらを総合的に活用して新たな知見を探究し続ける意欲がある学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 自己管理能力を高め他者を理解・尊重して協働しながら社会に貢献する意欲がある学生を求めます。 【生活マネジメント学科】 (※2026 年度より 学生募集停止)
---	--

生活マネジメント学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、本学科の教育目標を理解し、消費生活・家族福祉・情報活用に興味を持っている学生を求めます。また、生活者の視点から、真に豊かな生活の実現を主体的に模索し、新たな課題に取り組み、社会に貢献できる学生を求めます。

そのため、入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 高等学校の教育課程で学修した内容のうち、本学科の専門分野に関わりのある教科について深い知識・技能を身につけている学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) 生活者の視点から真に豊かな生活を実現するための諸課題を自ら発見し、主体的に解決するために必要な思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) コミュニケーション能力を有し、他者と協働し、真に豊かな生活の実現をめざして、社会のために主体的に行動し、貢献するという目的意識を持っている学生を求めます。

【環境デザイン学科】（※2026年度より 学生募集停止）

環境デザイン学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、豊かな生活環境（衣環境や住環境）の実現に関心を持ち、それに向けて、必要な知識・技能・デザイン力を身につけ、実践する行動力と意欲のある学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。

また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。

1. 知識・技能

(1) 文系科目、理系科目を問わず、高等学校の教育課程を幅広く学修し、修学に必要な学力を有するとともに、本学科の教育に強い関心を持つ学生を求めます。

2. 思考力・判断力・表現力

(2) さまざまな社会の問題に関心を持ち、それについて考え、考えた内容を社会に向けて発信したいと考える意欲のある学生を求めます。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

(3) 主体性を持って課題を発見し、その課題解決に向けて、多様な人々の意見を傾聴・理解し、それらの人々と協働できる学生を求めます。

学部等名 国際情報学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/) (概要)（※2026年度より 学生募集停止） 【国際情報学部】 国際化、情報化に関する専門的な知識と技能を総合的に学習し、多角的な視点から現代社会の諸制度と構造を深く把握したうえで、高度な専門的・実践的能力を十二分に活かして現実問題に取り組む人材を育成する。具体的課題として、国際社会、地域研究、現代社会、国際ビジネス、女性リーダーシップ、広告ビジネス、マスコミ、情報デザイン、情報技術の9つの分野を中心に、問題解決に実践的に取り組むことのできる能力を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)

(概要) (※2026 年度より 学生募集停止) 【国際情報学科】 国際情報学科では、大学のディプロマ・ポリシーに基づき、グローバル化と情報化が進む現代社会に関する専門的知識・技能を修得し、次の資質・能力を身につけ総合的に活用できる学生に学位を授与します。 1. 知識・理解 (1) グローバル化と情報化が進む現代社会の仕組みを理解するとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。 2. 汎用的技能 (2) 現代社会の問題点を、社会科学的な研究方法や情報リテラシーを駆使しつつ、世界的な視野から分析・考察することができる。 (3) 言語(日本語・外国語)に加え、音声・映像媒体、行動といった多様な表現方法によって自らの考えを適切に他者に伝えることができる。 3. 態度・志向性 (4) 自らを律し、互いの力を生かし合う協調型リーダーシップを発揮しながら行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。 (5) 福音主義キリスト教に基づいた倫理観により、隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献することができる。 4. 統合的な学修経験と創造的思考力 (6) これまでに修得した知識・技能・態度等を総合的に活用して、新たな課題に取り組むことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) (※2026 年度より 学生募集停止) 【国際情報学科】 国際情報学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目およびその他必要とする科目を順次性を考慮して体系的に配置し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップおよびカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表現する科目分類番号制を採用し、カリキュラムの構造を分かりやすく示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 (1) 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能・能力、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。具体的には「金城アイデンティティ科目」、「金城コア科目」、「金城展開科目」の区分に基づいた科目を編成します。 (2) 初年次教育では、学生が効果的に大学で学修し順調な学生生活を送るために、高校から大学の学びに円滑に移行できるようにします。共通教育科目における初年次教育では、学部学科の枠を超えて学問や大学教育全般に対する動機づけを図ります。専門教育科目における初年次教育では、入門的な講義科目と協働的な学修を行う演習科目を組み合わせることで、現代社会を読み解くための基礎的知識の修得および協調性・表現能力・論理的思考力の向上を図ります。 (3) 専門教育科目では、学生が現代社会のグローバル化と情報化に関する知識・技能を身につけることを通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 (4) 学生が社会科学の共通基盤を身につけられるように、「基幹科目」を設置し、社会人として通用する知識・技能を修得できるよう科目を編成します。 (5) グローバル化と情報化の問題点と可能性への理解を深めるため、「展開科目」を設置し、多角的な研究方法と情報リテラシーを用いて分析・考察できるよう科目を編成し

ます。また「展開科目」には、少人数の実践的な学修を通じてリーダーシップを養う科目を設置します。 (6) 学生が修得した知識・技能を総合的に活用できるように「演習科目」を編成します。 (7) 学生が専門教育科目を中心とする学修内容を総合化し活用・研究できるように、卒業年次に「卒業論文・卒業制作」を設置します。 2. 教育方法 (8) 講義科目においては履修者上限人数を原則 120 名とし、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。 (9) 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を实践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。 (10) 実習科目においては、体験を通して知識・技能を身につけ、柔軟な思考力を養うプログラムを編成して実施します。 (11) すべての授業科目において授業時間外学修を課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 (12) アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修支援をはじめ学生生活全般に関する助言を行います。 3. 評価 (13) 本学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げられた資質・能力およびこれらの総合的な活用力を確実に身につけられるように、学科レベル、学生レベルで評価を実施します。 (14) 学修成果の評価の公平性と透明性を確保するために、学修成果の評価方針(アセスメント・ポリシー)を定めます。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) (※2026 年度より 学生募集停止) 【国際情報学科】 国際情報学科は、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、グローバル化と情報化が進む現代社会に関する専門的知識・技能を身につけ、総合的に活用できることを強い意志を持って達成しようとする学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次の学力の3つの要素を備えていることを期待しています。 また、適正に学生を選抜して受け入れるように、多様な入試選抜方法を実施します。 1. 知識・技能 (1) 高等学校の教育課程を幅広く学修し、修学に必要な基本的な知識・技能を身につけている学生を求めます。 (2) 高等学校の教育課程で学修した内容のうち、本学科の専門分野に関わりのある教科について深い知識・技能を身につけている学生を求めます。 2. 思考力・判断力・表現力 (3) 入学までに学修した知識・技能を生かして課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。さらに本学科の専門分野の課題を探究し、学修成果を生かし種々の方法で社会の発展に寄与しようとする意欲を持っている学生を求めます。 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度 (4) 自らを律し、専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のため社会のために主体的に行動し、貢献するという目的意識を持っている学生を求めます。
学部等名 看護学部 教育研究上の目的 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/)	

(概要) 【看護学部】 多様な価値観や文化を尊重し、人間への畏敬の念をもって他者をいたわり、思いやることのできる優しさを備えるとともに、看護学の専門知識に基づいて自ら考え、判断する力と、確かな看護技術をもって実践する能力を身につけ、看護の質向上に寄与するために研鑽を重ねる能力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【看護学科】 看護学科では、学則第1条を踏まえ、所定の127単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(看護学)の学位を授与します。 1. 人間に対する畏敬の念と高い倫理観をもち、他者をいたわり思いやる豊かな人間性を有している。 2. 地域で生活する多様な人々の生活や文化的・社会的背景を理解し、それぞれの価値観を尊重しながら支援に当たることができる。 3. 健康上の課題に対し自ら幅広く多様な情報を収集、分析することによって、必要な看護を判断し、課題解決に向けて対応することができる。 4. 看護の専門的知識・技術・態度を身につけ、科学的根拠に基づいた、安全・安楽な看護を実践することができる。 5. 多職種と連携し、保健・医療・福祉チームの中で責任をもって役割を果たすことができる。 6. 看護の質向上に寄与するため、科学的探究心をもち、自律的・継続的に研鑽を重ねることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)
(概要) 【看護学科】 看護学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 1. 看護学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられるようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 3. 専門教育科目では、看護学の体系性に基づき、【導入科目】【看護英語コミュニケーション科目】【専門基礎科目】【専門科目】【保健師課程科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。 4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。 共通教育科目における初年次教育では、本学科の枠を超えて学問や大学教

育全般に対する動機づけを図り、情報教育を実施します。専門教育科目における初年次教育では、科学的根拠に基づいた看護実践の基礎となる知識を身につけるための科目を配置します。 【専門科目】の中に【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】【健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群】【看護の統合と探究】を編成します。 【看護の対象となる人々・地域への看護実践の基盤となる科目群】の中に【基礎看護学】【地域・在宅看護学】【グローバルヘルス看護学】の3領域を置き、看護学の基礎となる理論・専門知識と看護技術の修得、および国内外の保健医療福祉の現状を学修することで多様な社会資源、サービス、制度について理解し、多様な人々・地域を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 【健康課題をもつ人々への看護実践を展開する科目群】の中に、【成人看護学】【小児看護学】【母性看護学】【高齢者看護学】【精神看護学】の5領域を置き、あらゆる成長発達段階と健康状態にある人々を対象に看護実践ができる知識・技術を学修する科目を配置します。 【看護の統合と探究】の中に、多職種との連携・協働について学修する科目、看護の質向上のための自己研鑽・探究心を養う科目を配置します。 【保健師課程科目】は選択制とし、2年次以降に【公衆衛生看護学】の科目群を配置します。 - 教育方法 - 講義科目においては、主に知識の修得、理解を目的とし、適正な履修上限人数を設定のうえ実施します。 - 演習科目においては、豊かな人間性を身につけ、主に修得した知識を模擬的・総合的に体験し技術を獲得できるような教育方法を実施します。 - 実験・実習科目においては、主に知識や技術を実務に応用するための能力を身につけることができるような教育方法を実施します。 - 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。 - アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。 - 評価 - 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。	入学者の受入れに関する方針 (公表方法：https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【看護学科】 看護学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、看護に関心をもち、保健・医療・福祉分野および地域社会で、人々を最適な健康状態へと導く、信頼される看護職としての人材を養成します。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。 - 知識・技能 - 高等学校等の教育課程を学修し、修学に必要な基本的知識・技能を身につけている学生を求めます。 - 思考力・判断力・表現力
--	--

1. 入学までに学修した知識・技能を生かした思考力・判断力・表現力の基礎を身につけている学生を求めます。 3. 主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度 1. 自らを律し、看護の専門性を身につけ、多様な人々と協働して隣人のための社会のために貢献するという目的意識をもっている学生を求めます。
--

学部等名 薬学部
教育研究上の目的 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational/) (概要) 【薬学部】 薬剤師としての高い倫理観、科学的探究心、ホスピタリティーマインドをもち、予防薬学から薬物治療までの薬学的管理を通して医療・福祉・公衆衛生に貢献する人材を養成する。現場での課題に包括的に分析し、他者との良好なコミュニケーションを重視しながら、主体的に活躍できる能力を育成する。
卒業又は修了の認定に関する方針 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【薬学科】 薬学科では、学則第1条を踏まえ、所定の186単位と必修等の条件を充たしたうえで、以下に定める資質・能力を有すると認められた者に、学士(薬学)の学位を授与します。 1. 薬剤師として求められる高い倫理観をもち、患者・生活者の全人的な理解にもとづいてホスピタリティーマインドにあふれた行動をとり、医療・福祉・公衆衛生に貢献する。 2. 様々な立場の人々と共感的で良好なコミュニケーションをとり、情報の共有や問題解決に向けて自律的に取り組む。 3. 薬学的知識・技能および関連した先端科学技術・情報技術を修得するとともに、統合的に活用する。 4. 患者・生活者の社会的、心理的背景に配慮し、予防薬学から薬物治療までの薬学的管理を実践する。 5. 課題を薬学的視点から見出し解決できる科学的探究心をもち、生涯にわたって学び続ける姿勢を有して社会に貢献する。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/) (概要) 【薬学科】 薬学科では、学生がディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるように、共通教育科目、専門教育科目、及びその他必要とする科目を基礎から発展への段階をふまえて体系的に配置し、講義科目、演習科目、実験・実習科目を適切に組み合わせたカリキュラムを編成します。教育課程表の他に、カリキュラムの体系性を示すカリキュラム・マップ及びカリキュラム・ツリー、科目間の関連や科目内容のレベルを表す科目分類番号制を採用し、カリキュラムの全体像を分かりやすく提示します。 教育内容、教育方法、評価について次のように定めます。 1. 教育内容 1. 薬学科の教育課程に【共通教育科目】【専門教育科目】を配置し、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を獲得できるようにします。 2. 共通教育科目では、学生が福音主義のキリスト教に基づき、豊かな人間性を支える知識・技能、汎用的技能、態度・志向性の基礎を身につけられる

ようにします。共通教育科目には、建学の精神に基づく【金城アイデンティティ】を含む【基礎教育科目】と、自身の生き方を考える【キャリア教育科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。

3. 専門教育科目では、薬学の体系性に基づき、【薬学教養科目】【薬学基礎科目】【薬学基幹科目】【薬学展開科目】【薬学実習科目】【薬学演習科目】【卒業研究】【資格関連科目】の科目区分のもと、カリキュラムを適切に編成します。
4. 初年次教育では、入学者が高校から大学の学びに円滑に移行すること、大学教育が求める学問的・社会的要件を段階的に満たすことができるようにすることに重点を置きます。
5. 【薬学基礎科目】は、大学での学びに円滑に移行し、大学生としての必要な学修スキルを身につけるための科目と、薬剤師として求められる高い倫理観や全人的理解にもとづいたホスピタリーマインドを養うための科目を配置します。
6. 【薬学基幹科目】は、薬学的知識および関連した先端科学技術・情報技術を身につけるために、基礎薬学分野、衛生薬学分野、医療薬学分野の3つの分野の科目を配置します。
7. 【薬学展開科目】は、予防薬学から薬物治療までの薬学的管理を理解するために、基礎薬学分野、衛生薬学分野、医療薬学分野の3つの分野の科目を配置します。
8. 【薬学実習科目】は、薬学的知識・技能および関連した先端科学技術・情報技術の実践や薬物治療およびその薬学的管理の実践を修得するために、基礎薬学分野、衛生薬学分野、医療薬学分野の3つの分野の実習科目と、「実務実習」を配置します。
9. 【薬学演習科目】は、協働的に議論を深め良好なコミュニケーションを通じて自律的に問題点の抽出・解決を目指すために、「薬学セミナー」「薬学PBL」「薬学TBL」「薬学CBL」「事前学習」「薬学応用演習」といった継続的なアクティブ・ラーニング科目、および「基礎薬学演習」から「薬学総合演習」までの統合的演習科目を配置します。
10. 【卒業研究】は、薬学的視点に立って科学的探究心を追求して学ぶために科目を配置します。
11. 【資格関連科目】は、教職課程を履修する目的で物理と地学の科目を配置します。

2. 教育方法

1. 講義科目においては、適正な履修上限人数を設定し、アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
2. 演習科目においては、少人数できめ細やかな指導を実践し、ディープ・アクティブ・ラーニング等を取り入れた教育方法を実施します。
3. 実験・実習科目においては、知識や技能を身につけ、総合的に活用し、思考力を養うプログラムを編成して実施します。
4. 授業時間外学修をすべての授業科目に課し、学生の学修成果を高めるようなフィードバックに努めます。
5. アドバイザー制度により、学生情報を活用しながらアドバイザー教員が学生一人ひとりと面談し、学修を支援するとともに、充実した学生生活のために必要な助言を行います。

3. 評価

1. 学修成果の評価については、公平性と透明性を確保するために、到達目標と評価方法をシラバスに定め、筆記試験・実技試験・レポート・実習評価・授業貢献度等から多面的・総合的に評価を行います。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/policies/)	
(概要)	
【薬学科】	
薬学科では、本学の建学の精神を踏まえた教育目的を尊重し、本学科の教育目的を理解し、関心を持ち、医療現場及び地域社会で信頼される薬剤師、専門性の高い薬学ジェネラリストである薬剤師をめざす学生を求めます。そのため入学者に対してはカリキュラム・ポリシーに定める教育を受けるために必要な次に掲げる学力の3つの要素を備えていることを期待します。また、適正に学生を選抜して受け入れるように、さまざまな方法による入試選抜を実施します。	
1. 知識・技能	
1. 高等学校等における学修を通じて確かな基礎学力及び理科科目の学力を有するとともに、本学科の教育に強い関心を持つ学生を求めます。	
2. 思考力・判断力・表現力	
1. 高い学修意欲を持ち、新しい課題に対して工夫・改善を凝らしながら解決する意欲を持つ学生を求めます。	
3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度	
1. コミュニケーション能力にすぐれ、思いやりと協調性を持ち、多様な人々を理解し、ともに行動できる学生を求めます。	

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/educational-organization/

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	4人	－					4人
文学部	－	26人	11人	5人	0人	0人	42人
経営学部	－	11人	4人	0人	0人	0人	15人
人間科学部	－	25人	5人	4人	2人	0人	36人
デザイン工学部	－	12人	9人	6人	0人	2人	29人
生活環境学部	－	7人	4人	2人	5人	0人	18人
看護学部	－	11人	7人	4人	12人	9人	43人
薬学部	－	25人	8人	1人	13人	0人	47人
国際情報学部	－	1人	0人	0人	0人	0人	1人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		303人					303人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kinjo-u.ac.jp/kiphp/KgApp/TOP					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	245 人	259 人	105.7%	1100 人	795 人	72.2%	0 人	0 人
生活環境学部	80 人	73 人	91.2%	770 人	703 人	91.3%	0 人	0 人
国際情報学部	0 人	0 人	0%	510 人	399 人	78.2%	20 人	1 人
人間科学部	210 人	246 人	114.4%	1125 人	965 人	85.8%	20 人	2 人
経営学部	140 人	120 人	85.7%	140 人	120 人	85.7%	0 人	0 人
デザイン工学部	190 人	117 人	61.6%	190 人	117 人	61.6%	0 人	0 人
看護学部	100 人	117 人	117%	400 人	437 人	109.2%	0 人	0 人
薬学部	150 人	159 人	114.7%	900 人	937 人	104.1%	0 人	0 人
合計	1115 人	1091 人	97.8%	5135 人	4473 人	87.1%	40 人	3 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	219 人 (100%)	6 人 (3%)	194 人 (88%)	19 人 (9%)
生活環境学部	222 人 (100%)	1 人 (0%)	208 人 (94%)	13 人 (6%)
国際情報学部	161 人 (100%)	1 人 (0%)	146 人 (91%)	14 人 (9%)
人間科学部	278 人 (100%)	8 人 (3%)	254 人 (91%)	16 人 (6%)
看護学部	102 人 (100%)	2 人 (2%)	97 人 (95%)	3 人 (3%)
薬学部	123 人 (100%)	2 人 (2%)	94 人 (76%)	27 人 (22%)
合計	1105 人 (100%)	20 人 (2%)	993 人 (90%)	92 人 (8%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目は履修要覧等により、各授業の計画、方法と内容、授業回数等の詳細はシラバスに記載している。 履修要覧は当該年度の４月から、シラバスは前年度の３月から大学ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修成果に係る評価は全学統一の成績評価基準により行う。 卒業認定は、学則で定める「卒業に必要な最低修得単位数」により行う。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文化学科	124 単位	有	単位
	国際英語学科	124 単位	有	単位
	総合歴史学科	124 単位	有	単位
	音楽芸術学科	124 単位	有	単位
	英語英米文化学科	128 単位	有	単位
	外国語コミュニケーション学科	124 単位	有	単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	単位
人間科学部	現代子ども教育学科	124 単位	有	単位
	多元心理学科	124 単位	有	単位
	コミュニティ福祉学科	128 単位	有	単位
デザイン工学部	建築デザイン学科	124 単位	有	単位
	情報デザイン学科	124 単位	有	単位
生活環境学部	食環境栄養学科	124 単位	有	単位
	生活マネジメント学科	128 単位	有	単位
	環境デザイン学科	128 単位	有	単位
看護学部	看護学科	128 単位	有	単位
薬学部	薬学科	186 単位	有	単位
国際情報学部	国際情報学科	124 単位	有	単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/campus-gallery-map/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
文学部	日本語日 本文化学 科	800,000 円	200,000 円	422,300 円	2026 年度入学生より
		800,000 円	200,000 円	396,500 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	406,500 円	2023 年度入学生まで
	英語英米 文化学科	800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
	外国コミ ュニケー ション学 科	800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
	国際英語 学科	840,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
	総合歴史 学科	840,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
	音楽芸術 学科	1,330,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
		1,330,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		1,270,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
生活環境 学部	生活マネ ジメント 学科	800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
	環境デザ イン学科	840,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		840,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
	食環境栄 養学科	840,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
		840,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		780,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで

経営学部	経営学科	840,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
人間科学部	現代子ども教育学科	800,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
		800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	410,000 円	2023 年度入学生まで
	多元心理学科	800,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
		800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	408,000 円	2023 年度入学生まで
	コミュニティ福祉学科	800,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		740,000 円	200,000 円	405,000 円	2023 年度入学生まで
国際情報学部	国際情報学科	820,000 円	200,000 円	395,800 円	2025 年度入学生まで
		760,000 円	200,000 円	415,800 円	2023 年度入学生まで
デザイン工学部	建築デザイン学科	870,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
	情報デザイン学科	870,000 円	200,000 円	420,800 円	2026 年度入学生より
看護学部	看護学科	1,320,000 円	200,000 円	451,040 円	2026 年度入学生より
		1,320,000 円	200,000 円	398,000 円	2025 年度入学生まで
薬学部	薬学科	1,660,000 円	200,000 円	792,300 円	2026 年度入学生より
		1,660,000 円	200,000 円	395,000 円	2025 年度入学生まで
		1,600,000 円	200,000 円	395,000 円	2023 年度入学生まで
		1,600,000 円	200,000 円	425,000 円	2021 年度入学生まで

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学状況を適宜把握し、適切な相談、助言、指導を行う。補習・補充教育、能力別クラス編成により、学力の不足を補うとともに、学力に応じた学びを支援する。また、障がいのある学生、経済的事情により修学が困難な学生に対しての支援を推進する。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 人生や職業生活を主体的かつ積極的に切り拓く「自立的なキャリア開発の姿勢」への学びを正課授業、ガイダンス等を通し支援する。加えて、キャリア支援組織の活動を推進し、進路決定までを学生一人ひとりに寄り添い支援する。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 心身の健康の保持、増進に係る支援を充実させる。また、ハラスメント防止に関する活動を推進するとともに、被害者救済の機能を充実させる。加えて、学生生活上のマナー、ITの安全、有効な利用法を啓発し、次世代をになう社会人としての資質を養う。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.kinjo-u.ac.jp/ja/about/information/>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	F123310106568
学校名 (〇〇大学 等)	金城学院大学
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 金城学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		723人（487）人	729人（496）人	775人（527）人
内 訳	第Ⅰ区分	171人	172人	
	(うち多子世帯)	(31人)	(21人)	
	第Ⅱ区分	77人	66人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(一人)	
	第Ⅲ区分	36人	37人	
	(うち多子世帯)	(一人)	(12人)	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	89人	78人	
	区分外（多子世帯）	350人	376人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ 0）人
合計（年間）				778人（ 527）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	14人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	—	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	25人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	12人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	—	人	人
GPA等が下位4分の1	119人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	119人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。